

取扱説明書

610FUM-B / R1.5
COUGH BOX

Appl. 04th '06

製品名 610FUM-B

概要

対となる特定のオーディオインターフェースを持たずカフ信号としては制御接点出力のみとして、RTB マイクとそのアンプ、各種の制御モードを内蔵など、多様なシステム設計への親和性を重視しました。音声信号を直接制御しないシステムでは当製品定格を満たす DC 電源が供給できればカフシステムの主要な機能を作り出すことが出来ます。

*±15VDC 電源と各機器への配線が適切になされた状態で動作する設計です。当製品単体では動作しません。

*機器配線工事の不明点等詳細については当社宛ご連絡ください。

製品の特徴

*操作性を重視したユニークなデザイン。

*音声用放送機器としてはこれまでに無い方式のタッチスイッチを開発採用。('03 6月現在)

*-W ではカフに初めてホイールコントロールを採用、外部制御と操作の同調性を実現。('03 6月現在)

*-B では新設計した非接触センサーの T バーを採用、長寿命化を目指しました。

*小社 CUE BOX の長年のノウハウを生かした十分なパワーのヘッドフォンアンプを搭載。

*ステレオ標準ジャック x2、ステレオミニジャック (モノラルイヤフォン接続可) x2 装備 (同時使用可能数:2)

SPEC.

入出力コネクタ	D-sub15 ピンオス座 #4-40 インチネジ
ヘッドフォン出力	Stereo Phone jack x2 / Stereo Mini Jack x2 (同時使用可能数 2)
ヘッドフォン入力特性	入力インピーダンス Hot33k Ω /Cold33k Ω -10~+4dBu 基準
ヘッドフォン出力特性	出力インピーダンス 35 Ω 最大 1W+1W 周波数特性 20~20kHz +0.5/-0.5dB
RTB 出力	出力インピーダンス 100 Ω ラインレベル

定格

電源電圧	±15VDC (許容値±5%)
電源周波数	---
消費電力	2.7W
外形寸法	W=128 D=181 H=90
重量	1.7kg
付属品	取扱説明書(本書) 1

(株) スタジオイクイメント

〒154-0002 東京都世田谷区下馬 5-2-10

TEL 03-3795-3111

FAX 03-3795-3353

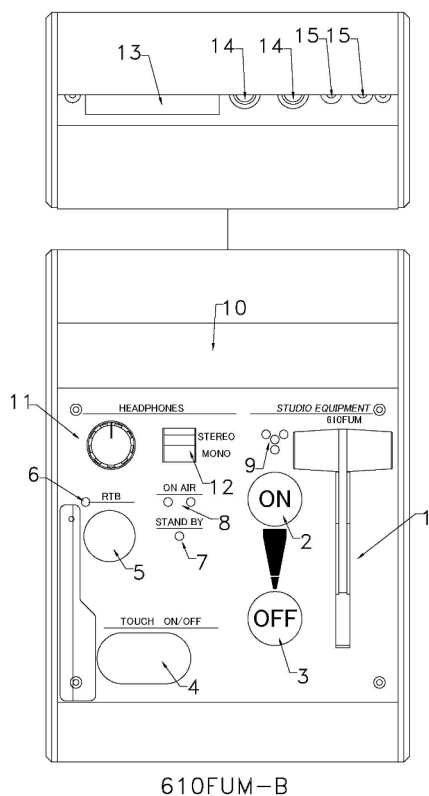
<http://www.studioequipment.co.jp>

各部の機能

- 1:T バー操作部。カフの ON/OFF を操作します。
- 2:ON ランプ。カフ ON を表示します(緑色)。*1
- 3:OFF ランプ。カフ OFF を表示します(黄色)。*1
- 4:ON/OFF タッチスイッチ。カフの ON/OFF を操作します。動作は T バーの状態などの影響を受けます。(*2)
610FUM-B:T バーが下の状態では触れる毎に ON/OFF が切り替わります。(*2)
T バーが上の状態では触れている間 OFF になります。(*2)
610FUM-W:触れる毎に ON/OFF が切り替わります。(*2)
- 5:RTB タッチスイッチ。触れている間 RTB ON。
- 6:RTB ON LAMP。RTB が ON の間点灯(黄色 LED)。
- 7:STBY LAMP。STBY 表示(黄色 LED)
- 8:ON AIR LAMP。ON AIR 表示(赤色 LED)。2 つの LED が同時に点灯します。
- 9:RTB マイク。マイクアンプとコンプレッサーを内蔵しています。出力はラインレベル。底面の半固定ボリュームで出力レベルを調整することが出来ます。
- 10:CUE LAMP。CUE 表示用(赤色)
- 11:ヘッドフォンボリューム。
- 12:STEREO/MONO スイッチ。MONO の場合 L,R がミックスされます。
- 13:I/O コネクタ。D-sub15 ピンオス座コネクタ。
- 14:ステレオヘッドフォンジャック 2 個
- 15:ステレオミニジャック(モノラルイヤフォン接続可) 2 個
(ジャックは計 4 つありますがヘッドフォン同時使用可能数は 2 つです。)
- 16:タッチスイッチ動作ランプ(R1.5~)。タッチスイッチ動作は内部設定により、ON/OFF、MUTE、無効(INVALID)、のうちのひとつが選択されます。無効の時、タッチスイッチ動作ランプは消灯します。無効以外の時、定常時は弱点灯し、タッチスイッチの操作により出力が ON になる場合のみ明点灯します。

*1 ON, OFF ランプは FU TALLY IN に接続された信号を表示します。これに加え、出力状態を間欠点滅で表示します。通常は出力状態とタリーの状態が一致しているため点滅表示は見えませんが、外部から強制的な制御があった場合にカフボックス出力とタリーがミスマッチとなるため点滅表示が現れます。点滅表示が現れた場合、現在の状態が外部制御によるものであることをアナウンサーに表示する意味を持ちます。

*2 この動作は RTB との動作の関連を含め、内部設定で変更できます。詳細は”内部 DIPSW 設定”頁参照



内部 DIPSW 設定

内部 DIPSW の設定で Touch ON/OFF と RTB の動作設定、及び FU MUTE OUT と FU ON TALLY IN の電氣的な制御論理を変更できます。

特に、DIPSW #1, #2 は、外部機器との配線接続と重要な関連を持っているため、設置後、最初に電源を入れる前に、必ず設定を確認してください。 * 当社製品 610A2/X, 610C1/X/S との接続の場合、#1, #2 は出荷時の設定のままで変更不要です。

*DIPSW の位置は R1.0 以降と以前で違います。本体底面のシリアル番号表示シールで確認してください。

R1.0 (ser. 1051 以降) は、操作面四隅の小さなプラスネジ 4 ヶ所を外して操作面パネルを上部にずらすと操作面中央奥に DIPSW があります。*ネジを外す場合は操作面を布等で覆ってネジ部分のみを出すようにするなどの方法で、本体内部にネジを落とさないように十分注意してください。もし内部にネジが落ちた場合、内部のショートにより故障する可能性があるため、ネジを取り出すまでは絶対に電源を入れないでください。

[ser. ~1050 では本体底面のパネルを外すと底面に内部 DIPSW があります。底面パネルの外し方は若干複雑です。I/O ケーブル、ヘッドフォンが接続されている場合は、先に外します。後方左右の M5 サラネジを外して、後ろ側のウエイト(ゴムが巻いてある棒状の部品)を外します。次に後ろ側、I/O コネクタがある四角い穴の下にあるボタン頭の M3 ネジを外します。本体左右の下側の各 3 ヶの M3 ネジを外して、底面パネルを後ろにずらすようにしながら外します。底面から見て中央付近に DIPSW が見えます。(ser. ~1050 のみ)]

DIPSW 変更は電源供給を切った状態で行ってください(EEPROM 保存 SW 3a, 3b を除く)。組み立ては逆の手順で行ってください。

各設定は以下の表によります。

DIPSW 設定 (*=Default) R1.5

DIPSW	xx=#1#2
#1 #2	*00: Mute_out/On_tally
	01: Mute_out/Mute_tally
	10: On_out/On_tally
	11: Toggle_mode/On_tally
#3	*0: Touch/RTB Mode0***
	1: Touch/RTB Mode1***
#4	*0: RTB SIGNAL ON @ RTB ON
	1: RTB SIGNAL Always ON

*DIPSW の各レバー位置と上の表との対応は、0=OFF/1=ON です

用語の説明

Mute_out : FU 出力 OFF のとき I/O コネクタの Pin11 "FU MUTE OUT" が Active(=L)

On_out : FU 出力 ON のとき I/O コネクタの Pin11 "FU MUTE OUT" が Active(=L)

Toggle_mode : FU の状態に変化があった時 I/O コネクタの Pin4 "FU ON TALLY IN" の状態により Pin11 "FU MUTE OUT" がパルス状(約 25ms)に Active(=L)

On_tally : I/O コネクタの Pin4 "FU ON TALLY IN" が Active(=L) のとき FU ON と認識します。

Mute_tally : I/O コネクタの Pin4 "FU ON TALLY IN" が Active(=L) のとき FU OFF(=Mute) と認識します。

RTB SIGNAL ON @ RTB ON : RTB 音声出力は RTB SW ON のときのみ ON

RTB SIGNAL Always ON : RTB 音声出力は RTB SW と無関係に常時 ON

#1, #2 が FU MUTE OUT と FU ON TALLY IN の電氣的な制御論理の設定です。FU MUTE OUT、FU ON TALLY IN は、混乱を避けるため、信号名として論理を定義していますが、実際には DIPSW でこのように変更可能です。特に mode11 "Toggle_mode/On_tally" は、本製品の特徴的な機能で、入力パルス毎に ON/OFF が切り替わるような制御相手の入力に対して、制御相手からのタリーの状態によって、トリガーパルスを出力する制御論理です。パルスの伝達が正確に行われたことをタリーの変化によって確認し、変化がない場合は最長 1sec の待ち時間を設け、その間に最大 2 回のパルスを再出力する仕組みにより、確実に制御を行います。このような、比較的少数の特殊なアプリケーションにも注意深く動作対応する設定を内蔵しています。

#3 は、ソフトウェアスイッチ 3a, 3b と合わせて、操作に関する設定を行います。主に、接続される外部機器との動作の整合をとることが目的です。この設定機能をはじめ、本製品は、様々な外部機器と直接接続されることを意識した設計となっています。設定の詳細については、次の表で説明します。

#4 は RTB 音声出力の設定です。

Touch/RTB Mode 設定

*#3e, #3a, #3b は内部メモリ (EEP-ROM) に保存されています。変更方法は次頁

610FUM-B R1.5

#3	#3e	#3a	#3b	(#3a, #3b is EEP-ROM Software SW)
*0	0	0	0	No_relation_RTb-FU / Touch_Mute@Up
0	0	0	1	No_relation_RTb-FU / Touch_Disable@Up
0	0	1	0	No_relation_RTb-FU / Touch_On/off@Up
0	0	1	1	Mute@RTb / Touch_On/off@Up
0	1	0	0	No_relation_RTb-FU / Touch_Mute_only
0	1	0	1	No_relation_RTb-FU / Touch_Invalid
0	1	1	0	Mute@RTb / Touch_Mute_only
0	1	1	1	Mute@RTb / Touch_Invalid
1	0	0	0	RTb_Disable@ON / Touch_Disable@Up
1	0	0	1	Mute@RTb / Touch_Disable@Up
1	0	1	0	RTb_Disable@ON / Touch_Mute@Up
1	0	1	1	Mute@RTb / Touch_Mute@Up
1	1	0	0	No_relation_RTb-FU /Touch_Mute_only
1	1	0	1	No_relation_RTb-FU / Touch_Invalid
1	1	1	0	RTb_Disable@ON / Touch_Mute_only
1	1	1	1	RTb_Disable@ON / Touch_Invalid

*DIPSW の各レバー位置と上の表との対応は、0=OFF/1=ON です

用語の説明

No_relation_RTb-FU : RTb と FU の動作は独立無関係

RTb_Disable@ON : FU ON TALLY INがON(注:Tバーの位置によってではありません)の状態の時RTbを動作禁止にします。

Mute@RTb : RTb 動作時、一時的に FU 出力を MUTE します。(**1)

Touch_Mute@Up : T-Bar Upの時、Touch ON/OFFを押している間Mute

Touch_Disable@Up : T-Bar Upの時はTouch ON/OFF 無効

Touch_On/off@Up : Touch ON/OFF の動作はT-Bar状態と無関係に押す毎にON-OFF反転

Touch_Mute_only : T-Bar Upの時 Touch ON/OFF を押している間 Mute。T-Bar Downの時は Touch ON/OFF 無効

Touch_Invalid : 常時 Touch ON/OFF 無効

**1: Mute@RTB: この機能は、通常、スタジオスピーカーを制御する外部機器や音声卓で行うべき機能です。この機能を有効にする場合は次の点に注意してください。スタジオスピーカーがある場合、通常FU ONの時スタジオスピーカーをCUTします。Mute@RTBが有効になっている場合RTB中はカフからの出力としてFU OFFになるため、ON AIR中でもRTBを押すとスタジオスピーカーがONになってしまうケースがあります。ハウリングがおきるわけではありませんが、この動作をアナウンサーが奇妙に感じるかも知れません。

Mute@RTBは操作に対して違和感のない動作状態を実現するためT-Bar Downの状態でも出力がONになる場合があります。T-bar Downで(強制ONなどの)外部制御によりタリーのみONになっている時、Mute@RTB設定でRTBを操作するとRTB動作中は一時的にFU出力をOFF(直前状態がOFFであるため動作開始時約0.2秒間自動的に出力をONにします)にしますが、RTB動作終了時、RTB動作開始直前のタリーの状態と一致するよう、出力をONにします。この動作は、外部制御がON状態をロックするようなしくみである場合は意味を持ちませんが、信号のエッジトランジションを利用するシステムの場合は有効に作用します。但し、前述の通りTouch_Mute_only設定でT-bar Downでも出力がONになる場合があります、このことが問題となるようなシステムには適しません。

(EEP-ROM Software SW) 3e, 3a, 3b の設定

このSWは内部メモリ(EEP-ROM)に保存されています。変更手順は、一旦電源を切り、T-Barを下げ、RTBとTouch ON/OFFを同時押しした状態で電源を入れ、同時押し継続のまま3秒以内にT-Barを上げるとSW_EDIT_MODEに入ります。SW_EDIT_MODEではTOUCH/ON/OFFランプに#3e(TOUCH), #3a(ON), #3b(OFF)SWの状態が表示され、Touch ON/OFFを押すたびにデータが変更されます。T-Barを下げるとSW内容がセーブされ、通常動作に移行します。RTBを押すと変更が破棄され、セーブせずに通常動作に移行します。

#3e=TOUCH Lamp の点灯として表示されます。点灯=1 消灯=0

#3a=ON Lamp の点灯として表示されます。点灯=1 消灯=0

#3b=OFF Lamp の点灯として表示されます。点灯=1 消灯=0

最初にお読みください。

610FUM-B

！注意！

当製品はタッチスイッチなどに光学部品が使われています。光学部品は機械的寿命が長い利点がある反面ごみや埃の付着による誤動作の可能性があります。特に当製品の特徴であるタッチスイッチは、光学センサーに当たっている赤外線を指で遮ることにより動作しています。光学通路へのごみなどの付着で光が遮られた状態になるとスイッチが押されている状態と判断し誤動作し続けてしまいます。通常の使用でこのような状態になることはありませんように設計されていますが、念のため数ヶ月に一度程度、表パネルをはずして（四隅の小さなプラスネジ4ヶ所で固定されています）TOUCH ON/OFF、RTB スwitchのタッチスイッチ面及び光通路溝（表パネルをはずした状態で見えるタッチスイッチ面左右にある溝）にごみなどがついていないか点検してください。ついている場合は綿棒などで取り除いてください。

